

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」阪急桂駅前校		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2026年 1月 13日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 24日 ~ 2025年 11月 29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人のニーズにあわせ 個別支援でオーダーメイドの療育を行っている	導入時は担当制を取り 信頼関係を築いて安心して過ごせる環境を提供している	コミュニケーションの幅を広げるため 担当以外の職員との関わりも定期的に行っている
2	毎回のフィードバックで保護者の声も十分に伺っている 子育てをサポートするため 支援の内容を見て頂きながら相談援助を行っている	担当が休みや不在時でも相談できる環境を提供できるよう 職員全体で接拶やお声がけを行って関係性を構築している	レスパイトの意味も併せて 家族支援を定期的に行い より深くお話を伺っていく
3	個別支援で得た特性に合わせて 小集団の定期開催で集団活動の支援も行っている	より個別支援を活かせるよう 年齢別や内容などによって企画を立てて行っている	長期的な成長を見据えて継続的に 年間スケジュールを立てて目標をもって取り組んでいく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動課題に必要なスペースに限りがある 受け入れられる人数の制限がある	運動ができる支援スペースが少ない 利用時間帯の集中でよりスペースの確保が難しい	スペース確保のため課題によって支援室を調整する 利用時間・曜日などを調整する事で受け入れ枠を広げる
2	専門知識の獲得 専門分野での支援	自己研鑽が必要と考えられる 専門職の拡充が必要と考えられる	内・外部研修に積極的に参加し自己研鑽に励む 専門分野を広げて知識を獲得する
3	地域への貢献	地域交流の偏り	曜日・時間固定で事業所の無料開放を継続 受給者証の有無に関わらず 広く療育を知って頂ける機会を提供していく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」阪急桂駅前校

公表日 2026年 2月 14日

利用児童数 8

回収数 7

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	1	0	0	ボールなど運動遊びをするには少し狭い	最大限広く使えるように調整や工夫をしていく
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7	0	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6	0	1	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5	1	0	1		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6	1	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	0	0	1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	0	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1	1	1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	1	0	2		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	6	1	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	1	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6	1	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	1	1	5		

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	0	0	1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	3	2	1	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	1	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	2	0	3		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4	2	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4	2	0	1		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	7	0	0	0	担当の先生が優しく 大好きで喜んで通っている	お子様が安心して過ごせる居場所となれるよう努めていく
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	7	0	0	0	色々な遊びがあるので「今日は何かなあ」と楽しみにしている	楽しみにして通所頂けるよう努めていく
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	0	0	0	子どものペースに合わせて無理なく楽しく学ばせて貰っている	お子様にも保護者の方にも満足頂けるよう努めていく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
こどもサポート教室「きらり」阪急桂駅前校		2026年 2月 14日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースの確保はしている	時間帯によって難しい時がある 運動課題が必要なお子様など調整が必要
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切な人数を確保して配置している	退職・移動などの際にも隙間なく配置が必要
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		フルフラットな床面でバリアフリー対応をしている パーテーションで区切り適宜調整している	棚の死角や机の角など危険な箇所への配慮が必要
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		空気清浄機や加湿器など心地よく過ごせる配慮をしている	定期的にエアコンなどの掃除が必要 運動遊びをするには少し狭い
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個々にあった環境を提供できるよう配慮している	運動をしたい子が部屋が空いておらず我慢してくれている事がある
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルの本格導入に至っていないが 定期的に会議を開き 業務の改善に努めている	継続していく必要がある
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		必要に応じ評価アンケートを行い保護者のニーズ確認と業務改善に努めている	継続していく必要がある
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		適宜1on1や会議の機会を設けている	定期的に行う必要がある
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		現在は利用者・事業所の二者評価となっている 今後必要に応じ第三者による外部評価については引き続き検討していく	必要に応じて対応していく
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に研修は行われている 初任者研修や全職員対象の定例研修を実施しており 行政等外部の研修にも積極参加している	継続していく必要がある 参加職員の偏りを無くしていく
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成・公表を行っている	継続していく必要がある
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的なアセスメントを行い保護者からのヒアリングに基づきサービス計画を作成している	チェック表などで漏れなく確認していく
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		担当者会議を開催し記録を残している	チェック表などで漏れなく確認していく
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		担当者会議を開催し記録を残している	定期的に担当以外で支援も行っており 共有できてきている
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		定期的にアセスメントシートを使用して行っている 日々の記録も共有している	チェック表などで漏れなく確認していく
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		五領域も網羅し定期的に見直しも行っている 目標と具体的な支援内容を設定している	「地域支援・地域連携」は現在設定していない
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	基本的には担当指導員が立案しているが共有作業などはしている。全社的なノウハウの蓄積システム「支援の工夫集」も整備している	毎回チームでは行っていない 小集団などチームでの立案機会はある

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		一人一人のニーズにあわせオーダーメイドの療育を行っている。毎回のフィードバックで保護者の声も十分に伺っている	長期で利用している人は固定しがちな傾向がある
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動により支援計画を作成しているが小集団療育も行っており考慮している	毎月開催するために日程の調整を行っていく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	個別内容に応じて行っている 必ずではないが 変更があれば都度行っている	毎回チームでは行っていない
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		小集団の時は行っている 個別の場合は必ずではないが 変更があれば都度行っている	毎回チームでは行っていない 他の職員との関わりを重視したお子様の時には行っている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		社内の統一書式で毎回記録をとり支援に生かしている	請求時などに抜けが無いように確認している
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		計画期間（6か月）ごとにモニタリングを実施しそれに基づきサービス計画を見直している	チェック表などで漏れなく確認していく
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当指導員や児童発達支援管理責任者が参加している	提案なども含め積極的に参画していく
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて適宜対応している	提案なども含め積極的に参画していく
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の要望と園側の了承があれば連携を図っている	提案なども含め積極的に参画していく
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の了解を頂いたうえ情報提供を行う	提案なども含め積極的に参画していく
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	必要に応じて適宜対応している	日ごろから積極的な連携に努めていく
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	現在は交流できていないが 多様な意見があることから保護者の希望を十分に伺い交流の在り方を検討していく	曜日・時間固定で事業所の無料開放を行っており 地域の子供などに寄り添える場を設けている
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		フィードバックの際に保護者のお声をしっかり伺い 課題等に関する情報を共有し支援に生かしていく	家族支援も含め積極的に共有していく
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	不定期ではあるが行っている チラシを掲示している 今後回数も増やしていきたい	必要に応じて積極的に行っていく
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明するほか 事業所に運営規程等を掲示している 利用者負担等は毎月の請求時に説明している	変更等も即時お伝えしていく
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的にモニタリングを行っている	チェック表などで漏れなく確認していく

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		対面で説明を行い同意を得ている	チェック表などで漏れなく確認していく
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族支援としてやフィードバック時などに必要に応じて保護者の子育ての悩み等の相談に応じている	提案なども含め積極的に行っていく
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	小集団療育などを通じて保護者相互の情報共有や連携促進に努めていく 兄弟利用の際には交流できるようにしている	現行は行っていないが 必要に応じて機会を設けていく 曜日・時間固定で事業所の無料開放は行っている
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		管理者が苦情相談窓口になり 苦情等があれば迅速・適切に対応している	行政等の苦情窓口も案内している
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログ・インスタを随時更新するほか 必要に応じラインなどでも保護者へのお知らせを発信している	継続して定期的に発信していく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		パスワードの設定・鍵付き書庫やシュレッダーを利用 職員研修等により個人情報の保護に留意している	支援時の事務スペースでの取り扱いにも十分配慮していく
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特性に応じてアプローチを工夫している	職員間の共通意識も徹底していく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		個別療育であり個人情報保護の制約もあるが自治会にも加入しており地域交流の手法等を検討していく	毎週曜日・時間を固定して無料開放している
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し、それに基づく対応に努めている	職員等への周知も徹底していく 防災訓練への参加も促していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し 定期的に避難訓練も行っている	時間帯の関係でお子様の参加が難しいことがある
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		見学時にフェイスシートを記入いただき確認している	アセスメント時など定期的に再確認していく
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	食事の提供はしていない	清掃時などに職員の食事などにも配慮して対応していく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		計画を作成した上で研修などを定期的に行っている	継続して行い記録の保管と共有を行っていく
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		重要事項説明書へ記載し 周知している	情報共有の上 連携を図っていく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例発生の場合は上司への報告 職場での情報共有を行い 再発防止に向けて社内で都度共有している	事故を防ぐ意味でも しっかりと事例を上げていく
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に内部研修を実施し行政等の外部の研修にも参加している	委員会を設置し定期開催している 契約時に重要事項説明書で保護者への説明も行っている
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		マニュアルを策定し研修を実施している やむを得ず身体拘束の必要が生じうるお子さまについては 保護者のご理解を得たうえで個別支援計画に明記している	委員会を設置し定期開催している 契約時に重要事項説明書で保護者への説明も行っている